

行動分析学から見た 宗教心理学

中尾将大

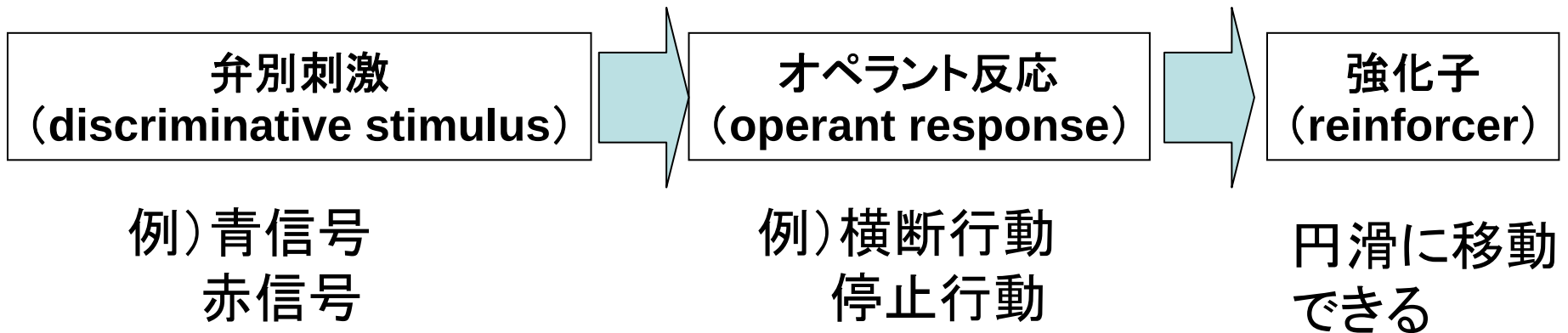
大阪大谷大学 人間社会学部
(非常勤)

日本における主な宗教的行動

- 禪宗における座禪
- 加持祈禱(天台宗・真言宗)
- 千日回峰(天台宗)
- 読経
- 写経(般若心経)
- 修験道(山岳信仰)

三項目強化随伴性

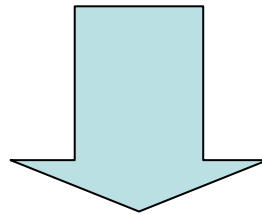
- どのような刺激の元でどのように反応すれば強化されるのかという関係性を示す三項随伴性 (three-term contingency)



- 「今どのような振舞い方をすればもっとも適切であるか」という学習 (単純なS-R理論とは異なる)

記述的行動主義

- 刺激－反応間に媒介変数を置くことを認めず、演繹的でなく帰納的で直接観察しうる刺激と反応のみを取り扱い、その両者の関係の記述に徹しようとする考え方である
(今田、宮田、賀集, 1990)



観察可能な行動の観察と徹底的記述

日本の仏教

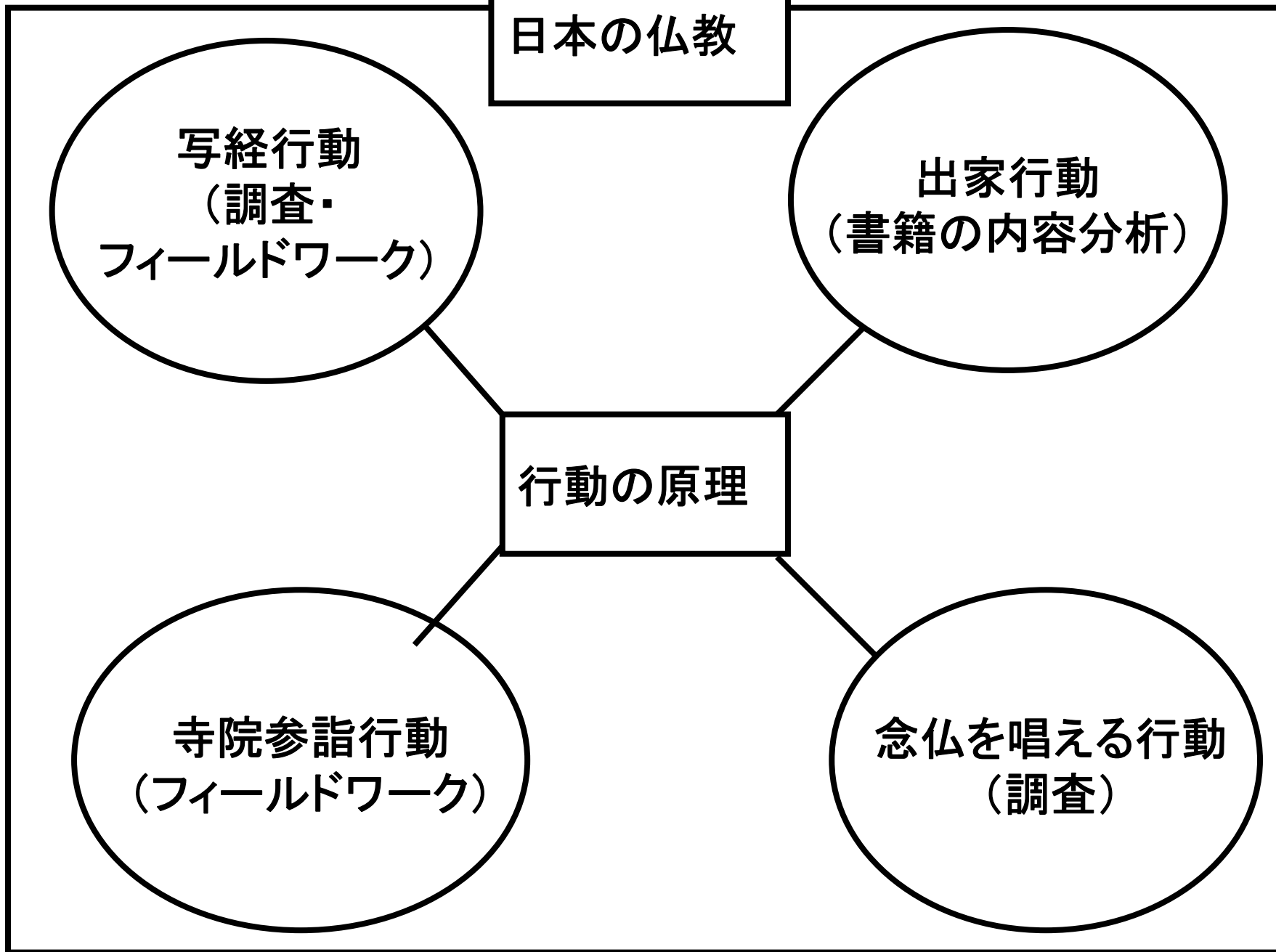
写経行動
(調査・
フィールドワーク)

出家行動
(書籍の内容分析)

行動の原理

寺院参詣行動
(フィールドワーク)

念仏を唱える行動
(調査)



東アジア文化圏

中国の仏教

チベットの仏教

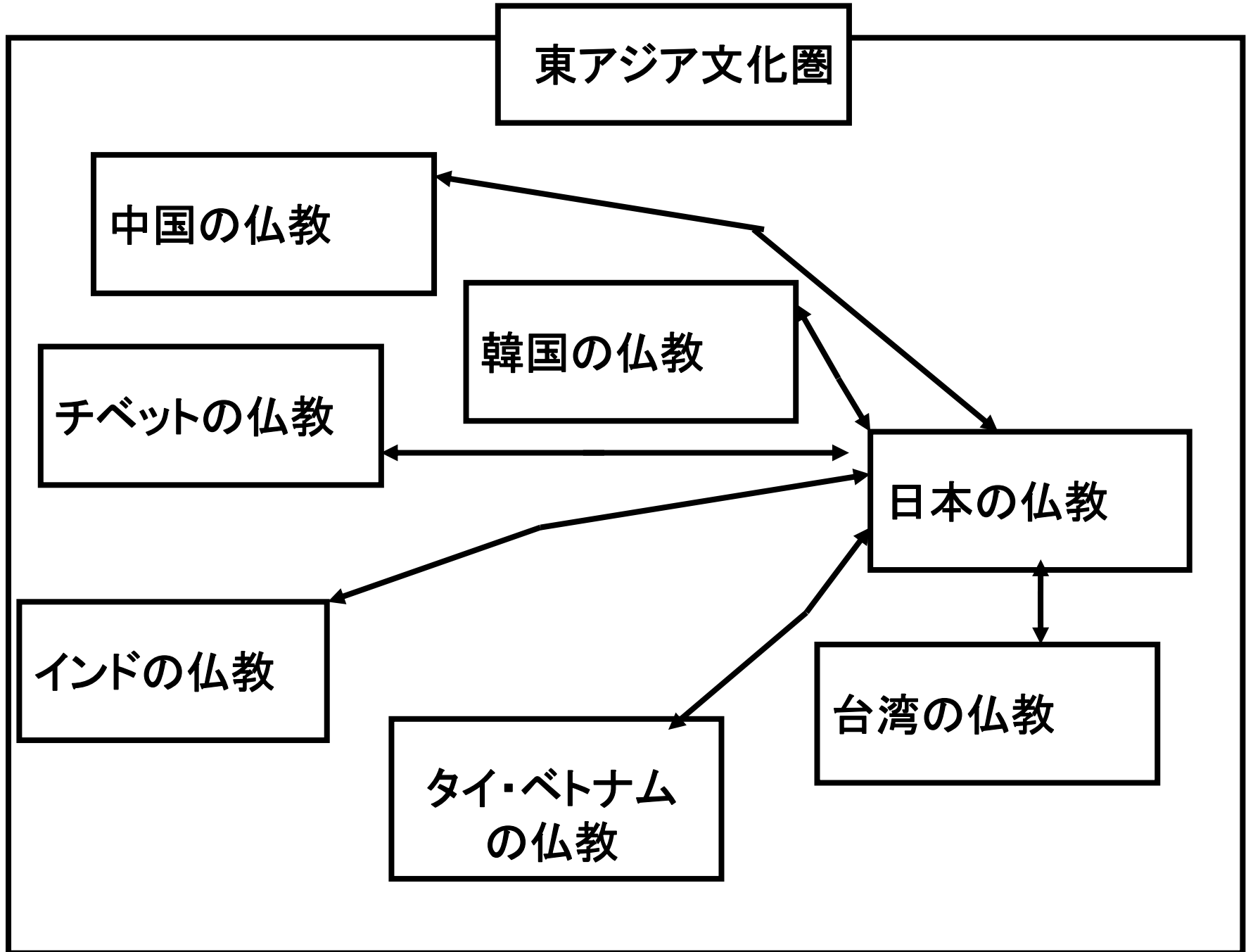
韓国の仏教

日本の仏教

インドの仏教

タイ・ベトナム
の仏教

台湾の仏教



目標と理想

- 宗教的行動
- 宗教心理学

(関西学院大 心理学研究室
創始者 今田恵)



- 日本の仏教
 - 東洋文化と叡智の発信
- (真宗本願寺派22世門主
大谷光瑞)



「宗教的行動」研究の意義

①精神的「癒し」を得る方法

→宗教的行動を通して癒しを得、自ら人生に取り組んでいける方法(オペラント反応)を模索

②仏教的「行動修正法」の確立

→人生における様々な「苦」を回避し、意義ある幸福な人生を送られる手助け

理想：釈迦の「八正道」の現代版・簡易版